

# 風車

紀州の歴史と文化の風

文化財センター季刊情報誌【かざぐるま】

2013 春号

# 62

公益財団法人 和歌山県文化財センター

## 特集 和田遺跡の発掘調査



# 特集 和田遺跡の発掘調査

## はじめに

今回の調査地である和田遺跡は和歌山市南東部に位置します。調査地の北側には弥生時代を中心とする神前遺跡や井辺遺跡があり、その東側の丘陵上には井辺前山古墳群が所在します。西側には和田古墳群や坂田遺跡があり、坂田遺跡の南側に隣接して和歌山唯一の陵墓がある竈山神社があります。また調査地周辺は、律令時代の土地区画である河南条里の地割が良好に残り、古くから水田として利用された地域です。

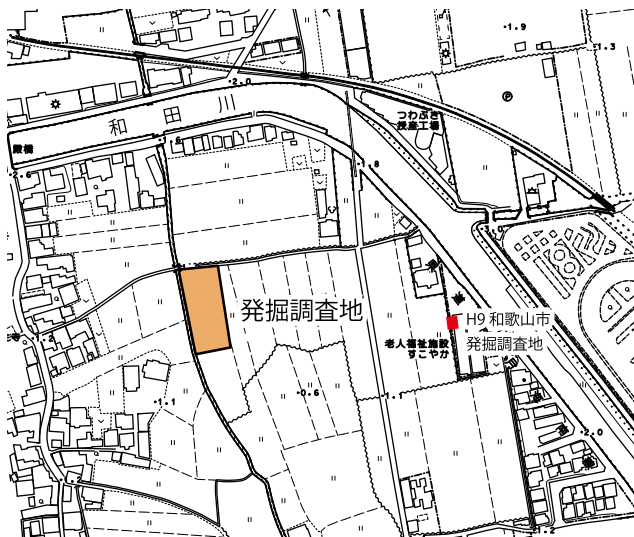
和田遺跡の北側には和歌山市の山東地区より和田川が西流し、遺跡の北限となります。遺跡の範囲は南北約500m、東西300mを測り、遺跡の中央には南北方向に和田盆地を灌漑する宮井用水が流れています。

和田遺跡では平成9年に発掘調査が行われ、鎌倉時代頃の水田跡と推測される痕跡が確認されていますが、大規模な調査は行われてきませんでした。

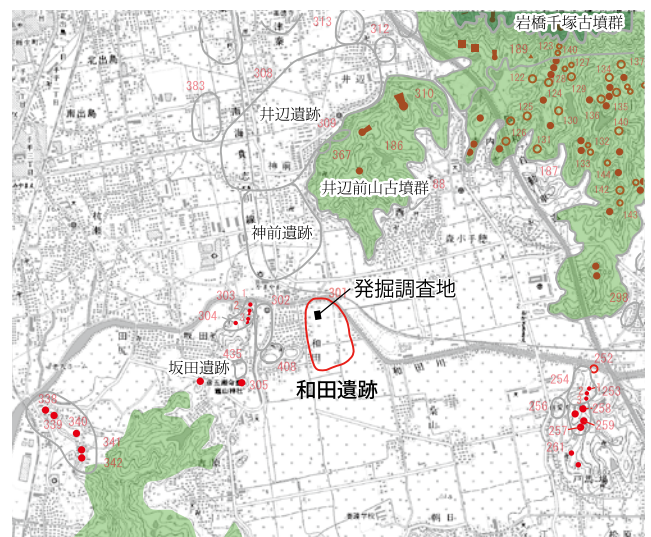
今回の調査は秋月海南線道路改良工事に伴い、平成24年11月から平成25年2月にかけて約1500㎡の発掘調査を行いました。遺構を検出できたのは2面で、主に弥生時代から古墳時代を中心とした遺構が確認されました。

## 第1遺構面

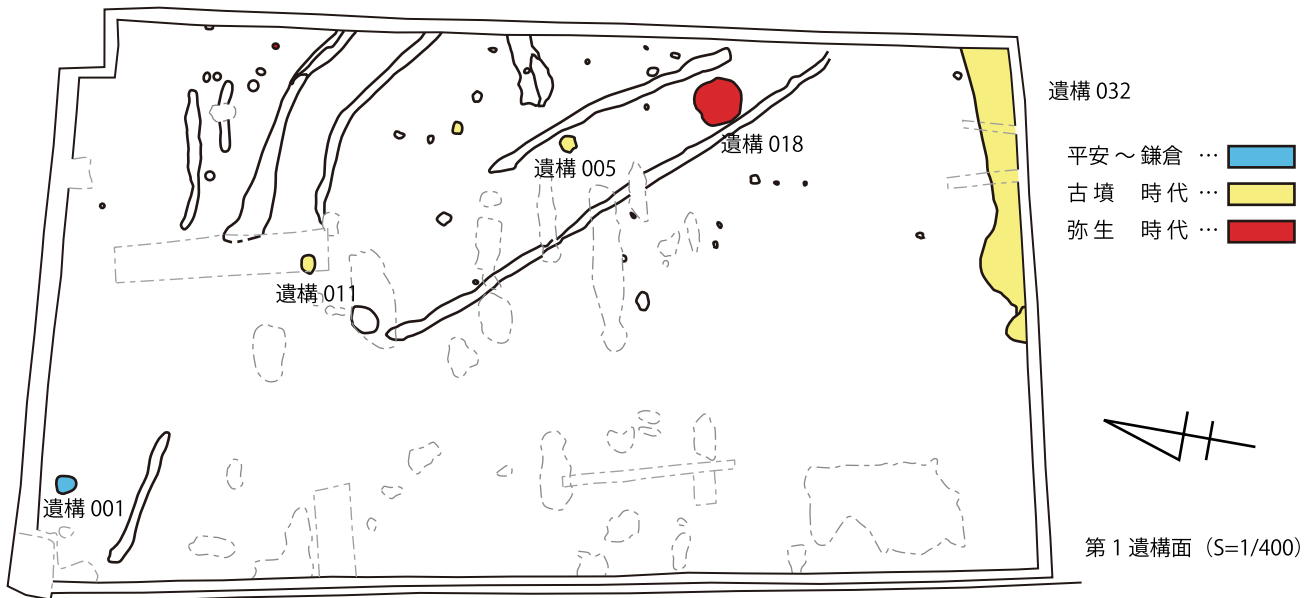
第1面では、調査区北西部で平安時代から鎌倉時代にかけての木枠の井戸（遺構001）を検出しました。木枠の井戸は四隅に杭を打ち四面に板材を入れた構造となっていました。井戸の中には約30cm大の石が複数入っており、それを取り除くと



調査位置図 (S = 1/5,000)



遺跡位置図 (S = 1/50,000)



遺構 001 (井戸)

白い石を入れた土師器の皿が出土しました。井戸を廃絶するにあたり、何らかの祭祀のために石を入れた土器を埋設した可能性が考えられます。

調査区中央では複数の土坑を検出しました。土坑（遺構 005・011）からは古墳時代中期～後期にかけての土師器の甕や高杯が出土しています。

調査区中央東には直径約2.4mの大規模な素掘りの井戸（遺構 018）が検出され、



遺構 011 (土坑)

出土遺物から弥生時代のものと考えられます。調査区南では古墳時代中期の溝状の遺構（遺構 032）を確認しました。遺構は南側に向い傾斜し調査区外に広がります。溝状遺構からは多くの土器と約15cm大の石が集積した状態で出土しました。

遺物は、白玉や鏡の模造品と考えられる有孔円盤、須恵器の杯などが出土しています。

## 第2遺構面



遺構 032 (溝状遺構)

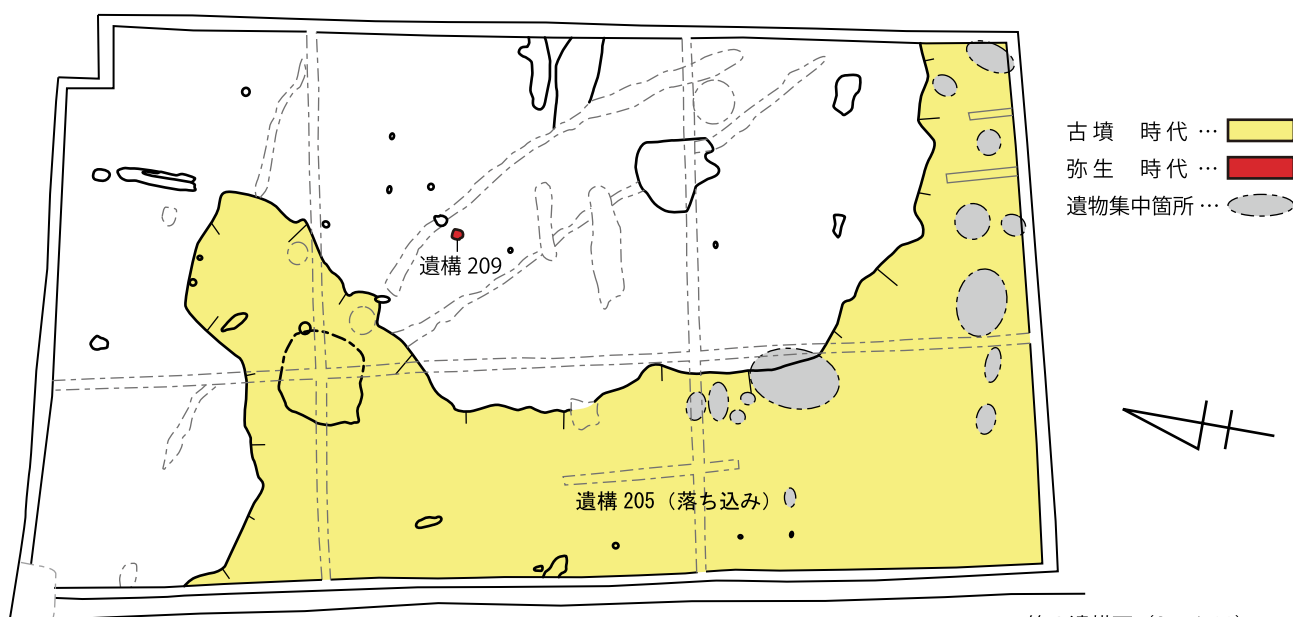
## まとめ



遺構 018 (素掘りの井戸)

第2面では、土坑や複数のピット、落ち込み状遺構を検出しました。  
調査区中央で検出した土坑（遺構209）は約60cmの楕円形で弥生時代中期のミニチュア土器が出土しました。調査区北西から南側にかけて検出した落ち込み状遺構（遺構205）は、肩部分から多くの土器が出土しました。遺物は弥生時代中期から古墳時代前期のものが見られ、砥石や小型の石斧なども出土しています。

今回の調査では弥生時代・古墳時代・平安時代から鎌倉時代にかけての遺構が検出されました。文献資料から調査地周辺では古くから水田が営まれ、古墳時代に起源をもつ宮井用水が、中世の時期に整備されていたことが知られています。平成9年の調査においても水田跡と推定される痕跡が確認されており、今回の調査で水田跡の植物のものと考えられる痕跡を多数確認したことで、調査地周辺が古くから水田として利用されていたことが裏付けられました。調



第2遺構面 (S=1/400)



査地中央から西側で検出した落ち込み状遺構の堆積状況から、長く湿地のような状態であったと推測されます。また、弥生時代の遺物が出土したことから、調査地西側付近は宮井用水が造られる古墳時代以前より水の影響を受けていたと考えられ、水田を営む上で適した場所であったと考えられます。



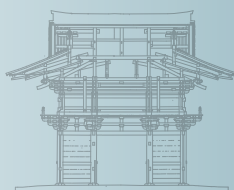
和田遺跡は今までに広範囲の調査が行われておらず、遺跡の様相が不明確でしたが、今回の調査により調査地東側には微高地が広がり、弥生時代には人々が生活を営んでいたと推測される貴重な成果を得ることができました。

(津村 かおり)



上：調査区全景（北東から）  
 中央左：有孔円盤  
 中央中：白玉  
 中央右：小型石斧  
 下左：遺構 205（落ち込み状遺構）  
 下右：遺構 205（砥石出土状況）





## 道成寺の仏像と年輪年代

### —奈良時代八世紀後半の 釈迦如来手首発見—

道成寺本殿千手観音立像、宝仏殿国宝千手観音立像の前で、私達人間は、千年以上、苦悩からの解放を願って祈ってきました。千手観音は、千の眼で人間の苦悩を見、千の手で人間の苦悩を救う仏です。道成寺は、寺伝では「文武天皇勅願の寺」といわれ、県内で現存する最古の寺院で白鳳時代の創建以来、千古の歴史を歩み続けてきた歴史ある寺院です。二〇一二年十一月には国史跡の答申も受けています。この道成寺には創建の話として宮子姫伝説があります。道成寺の歴史は、文献資料がないため、考古資料・文化財建造物・仏像・民俗・伝承などで明らかにされ、当センターも文化財建造物、考古学の二分野から歴史の一端を明らかにしています。道成寺は、八世紀初頭の仏堂、八世紀後半の一塔と金堂、講堂を持つ観世音寺式の伽藍配置を整え、複

廊の回廊を持つこと、本堂には北向き、南向きの千手観音立像があることが明らかされています。



展示ケースの両手首

今年年輪年代測定を光谷拓実先生に依頼した結果、県指定の釈迦如来坐像の両手首は、左手首の上限が七二一年+a、右手首の上限が七二二年+aで、展示ケースの両手首は、左手首が一六九年+a、右手首が一六三年+aと測定されました。更に仏像研究の長田寛康先生に依頼したところ、釈迦如来坐像に付いている両手首は、奈良時代後半の様式・技法であること、展示ケースの両手首は鎌倉時代で、本来の釈迦如来坐像の両手首である事が判明しました。奈良時代後半の観世音寺式の伽藍の金堂に、

この両手首がついた釈迦如来があつたのです。この伽藍配置は鎮護国家の寺院で、全国では東西南北の国家にとって重要な拠点に配置されます。道成寺の宮子姫伝説が本当であつたと思わせる発見です。学際的な総合研究により、極めて短期間に後世へ語り継がれるような道成寺の価値が上がる大発見が出来ます。ました。

(洪谷高秀)



11月23日講演会「道成寺の謎に迫る」

左より、光谷拓実先生、長田寛康先生、菅原正明先生、佐藤正知文化庁主任調査官、小野俊成住職。

## 古建築修理の逸話④ 松皮葺き

熊野本宮大社では今年度、神門や神饌所の屋根葺き替え工事を進めて来ました。先日、神門の修理現場の一般公開を開催し、伝統工法の一つである松皮葺きの屋根や作業風景を間近に見て貰う機会がありました。そこで、今回のコラムでは、表題から少し離れますが、公開時に受けた質問に沿う形で松皮葺きを紹介してみます。

- I 松皮屋根の寿命はどの位？→40年前後、環境の違いで差あり。
- II 皮を剥かれた松は枯れる？→成長を妨げないとそろまでを剥く。
- III 一度剥いたら終わり？→8年位で皮が再生するとまた剥ける。
- IV 屋根の厚みは？→9センチ程度、軒先の厚みと同じではない。
- V 松皮を水に濡らして葺いているが？→濡らした方が松皮を並べたり、竹釘で止めていく作業を効率的に行える。
- VI 樹皮の内側を表にするのはなぜ？→①剥いた樹皮を葺き材に調整する過程で主に外側を加工するため、繊維が荒れてしまう。
- ②産地による色味のバラツキは外側より内側の方が小さいため、葺き上がった屋根の姿がきれいに見える等が考えられる。



修理現場公開時の様子

その他にも、松皮の産地や供給量、全国の職人の数や一日の作業量、修理の考え方など、素朴な疑問から専門的な質問までさまざまでした。精いっぱいわかり易く回答したつもりですが、どこまで伝わりましたでしょうか。職人の竹釘を打ち込む音がBGMの様に現場に響き渡っていたことが印象的でした。

(下津健太郎)

## きのくに歴史小話

～きのくにれきしこぼなし～

## 発掘屋余話②① 同音異語

この稿を書いている今、戸外では「黄砂」と「PM2.5」と「スギ花粉」が飛び交っています。これらを総称して飛散(悲惨)三兄弟と言うらしいですね。

ところで大気中を飛散するものとしてはほかに火山灰があります。意外に思われるかも知れませんが、この火山灰と考古学は関係が深いですよ。鬼界アカホヤテフラとか始良Tnテフラと呼ばれる火山灰は発掘の上で鍵層となる重要なものです。

なかでも関東ローム層と旧石器の話はよく知られていますね。関東ローム層というのは、富士山や浅間山などの関東周縁の諸火山の噴火による堆積物ですが、この火山灰の堆積がすすむ頃には、日本列島には人が住んでいなかった、つまり日本には旧石器時代が存在しないというのが長い間の定説でした。

それを覆したのは、戦後間もなく群馬の田舎で、納豆などの行商をしながら独学で考古研究をおこなっていたひとりの青年、相沢忠洋氏の発見でした。昭和24年、氏は岩宿(現群馬県みどり市笠懸町)の切り通し断面に露頭していた関東ローム層の中からまぎれもない旧石器・槍先形石器を見つけ出します。これまで否定されてきた日本の旧石器時代の存在を証明した瞬間でした。岩宿遺跡の発見。以後、明治大学による精力的な発掘調査が実施されます。日本の旧石器研究の嚆矢をなすものです。まことにいつの時代も常識を打ち破るのは、名も無き若者の情熱ですね。

それにしてもPM2.5は気がかりですね。日本への影響も懸念されています。たしか画家・梅原龍三郎の代表作のひとつに「北京秋天」というのがありました。大陸のきれいに澄んだ空気が画布から流れ出てくるような佳品です。

もし今、画伯が北京の街を描いたならきっと画題は少し違っていたでしょうね。曰く「北京愁天」――。

(村田 弘)

## 催し物案内 和歌山県内の文化財関係イベント情報 (2013年春～2013年夏)

### 和歌山県立紀伊風土記の丘

- 春期企画展「海の考古学 ―海人と古代豪族―」 2013年 3月23日 (土) ～ 6月23日 (日)

### 和歌山県立博物館

- 企画展「文化財受難の時代 ―いかに守るか―」 2013年 3月 9日 (土) ～ 4月21日 (日)
- 特別展「桑山玉州のアトリエ ―紀州三大文人画家の一人、その制作現場に迫る―」  
2013年 4月27日 (土) ～ 6月 2日 (日)
- 企画展「大工の仕事」 2013年 6月 8日 (土) ～ 7月15日 (月)

### 和歌山市立博物館

- 特別陳列「博物館へ花見に行こう」 2013年 4月20日 (土) ～ 6月 2日 (日)

### 高野山霊宝館

- 春期企画展「悠久の美 ―高野山の金工品―」 2013年 4月27日 (土) ～ 7月 7日 (日)

#### 目次

- 1 表紙 遺構 205 落ち込み状遺構 土器出土状況
- 2 特集「和田遺跡の発掘調査」
- 6 文化財建造物課 短信「道成寺の仏像と年輪年代 ―奈良時代八世紀後半の釈迦如来手首発見―」
- 7 きのかに歴史小話「古建築修理の逸話 ④ 栓皮茸き」  
「発掘屋余話 ⑳ 同音異語」
- 8 催し物案内

## 風車62 (2013・春号)

平成 25 年 3 月 25 日

(公財)和歌山県文化財センター

URL <http://www.wabunse.or.jp>

(公財)和歌山県文化財センター

【事務局】

〒640-8404 和歌山市湊571-1

TEL 073-433-3843 FAX 073-425-4595  
maizou-1@wabunse.or.jp